

日本風景街道の取組み

能登半島地震からの復興と
今後の風景街道の発展に向けて

令和7年6月20日

国土交通省道路局

人を呼び込む絶景海道の復興へ



○国道249号や県道などの能登半島沿岸部を通る道路について、周遊観光の促進・「道の駅」の集客強化・サイクルツーリズムの活性化・魅力ある風景街道の創出などにより、人を呼び込む絶景海道を目指します。

○有識者や国・県・市町からなる「能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会」を2月3日に設置し、復興に向けた議論をスタート。



1 能登の魅力が「ぐるっと周遊」

能登の絶景、豊かな自然の恵み、守り伝えられてきた祭礼・伝統技術など、魅力たっぷりの能登。インバウンドを見据えた多言語対応を進めるなど、周遊観光の促進を目指します。



輪島朝市の賑わいの復活

2 人が集まる「道の駅」へ

いまや旅の目的地から地域づくりの拠点へと進化する「道の駅」。観光拠点としての環境整備や地域の特産品の販売など、人の集う賑わいの場をつくれます。



地域の個性を活かした環境整備

3 能登を自転車でライド！

「能登の里山里海を自転車で走るのは楽しい！」能登の魅力を感じて国内のみならず海外へ発信し、サイクルツーリズムを盛り上げます。



「ツール・ド・のと」の盛大な開催

4 風景街道が“おもてなし”

奥能登の旅から人と風景をつなぐ風景街道。魅力あるいしかわの風景や震災遺構を活用した観光イベントの実施や美化活動など地域住民が参加するまちづくりを進めます。



奥能登絶景海道の企画

1-1. 震災によって出現した新たな資源の活用

1. 能登の魅力を「ぐるっと周遊」

ソフト面

・新たな絶景、震災遺構の発掘

海岸隆起などで景観が変化した箇所を新たな絶景スポット、姿が変わってしまった名所などは震災遺構として、能登の新たな魅力の情報発信を行います。

◆能登絶景美岩の選定(例:ゴジラ岩、窓岩(ハート岩)、トトロ岩、機具岩、カエル岩、能登双見岩等)



ゴジラ岩【珠洲市】



窓岩(ハート岩)【輪島市】



トトロ岩【輪島市】

東日本大震災では、被災した建物をそのまま残す他に、復興のために使用した建造物も震災遺構として残してあります。

能登半島地震においても、現在復興工事で使用している建造物を残すことを検討していきます。



ベルトコンベア跡(岩手県陸前高田市)

【その他の取り組み案】今しか見られない能登ツアー開催支援、奥能登国際芸術祭の開催支援
震災前後を比較できるコンテンツの検討 等

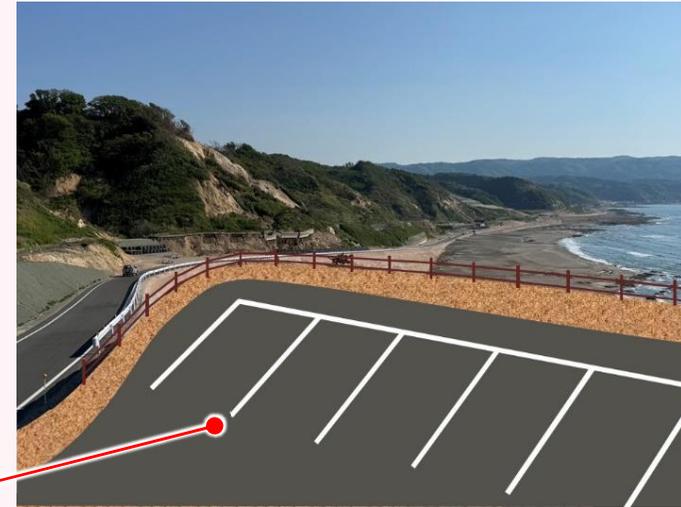
1-1. 震災によって出現した新たな資源の活用

1. 能登の魅力を「ぐるっと周遊」

ハード面

・絶景を眺望できるパーキング等の整備

地震で被災した寄り道パーキングの復旧工事に加えて、新たな絶景スポットや震災遺構について、集客スポットとしての整備を行います。



新たな風景（隆起海岸等）を
眺望できるパーキング

新たなパーキング等の整備イメージ

・奥能登「空の駅」の整備支援(ドローンタクシー構想)

ドローンによる物流ネットワークの構築や、ドローンタクシー・空飛ぶ車の実現などの拠点となる奥能登「空の駅」の整備を支援します。



空飛ぶ車ドローン（EH216S）

(写真:ドローン物流事業パンフレット_一般社団法人SkyMobilityJAPAN)

1-2. 周遊観光につながる取り組みの推進

1. 能登の魅力「ぐるっと周遊」

ソフト面

・能登半島絶景海道キャッチフレーズ・ロゴマークの設定

周遊観光、「道の駅」、サイクルツーリズム、風景街道などのあらゆる取り組みにおける共通のキャッチフレーズ・ロゴマークを設定し、能登半島絶景海道全体の一体感を醸成します。

【キャッチフレーズイメージ】

- ・最高の海景色と巡り逢う道 “能登半島絶景海道”
- ・美しい海景色へ誘う特別な道 “能登半島絶景海道”
- ・新たな魅力へ誘う “能登半島絶景海道”



能登半島絶景海道ロゴマークイメージ

・石川県観光連盟デジタルマップ等の活用

石川県観光連盟ホームページで令和6年12月から公開されている「今行ける能登」デジタルマップ等を活用し、周遊モデルルートの設定・地図への表示、通れるマップや工事の進捗状況、能登の観光スポットの情報発信を行います。



観光デジタルマップ
(石川県観光連盟デジタルマップホームページ)

【その他の取り組み案】 周遊モデルルートの設定 等

考えられる取り組み(案)

1-2. 周遊観光につながる取り組みの推進

1. 能登の魅力「ぐるっと周遊」

ハード面

・周遊道路の復旧・整備

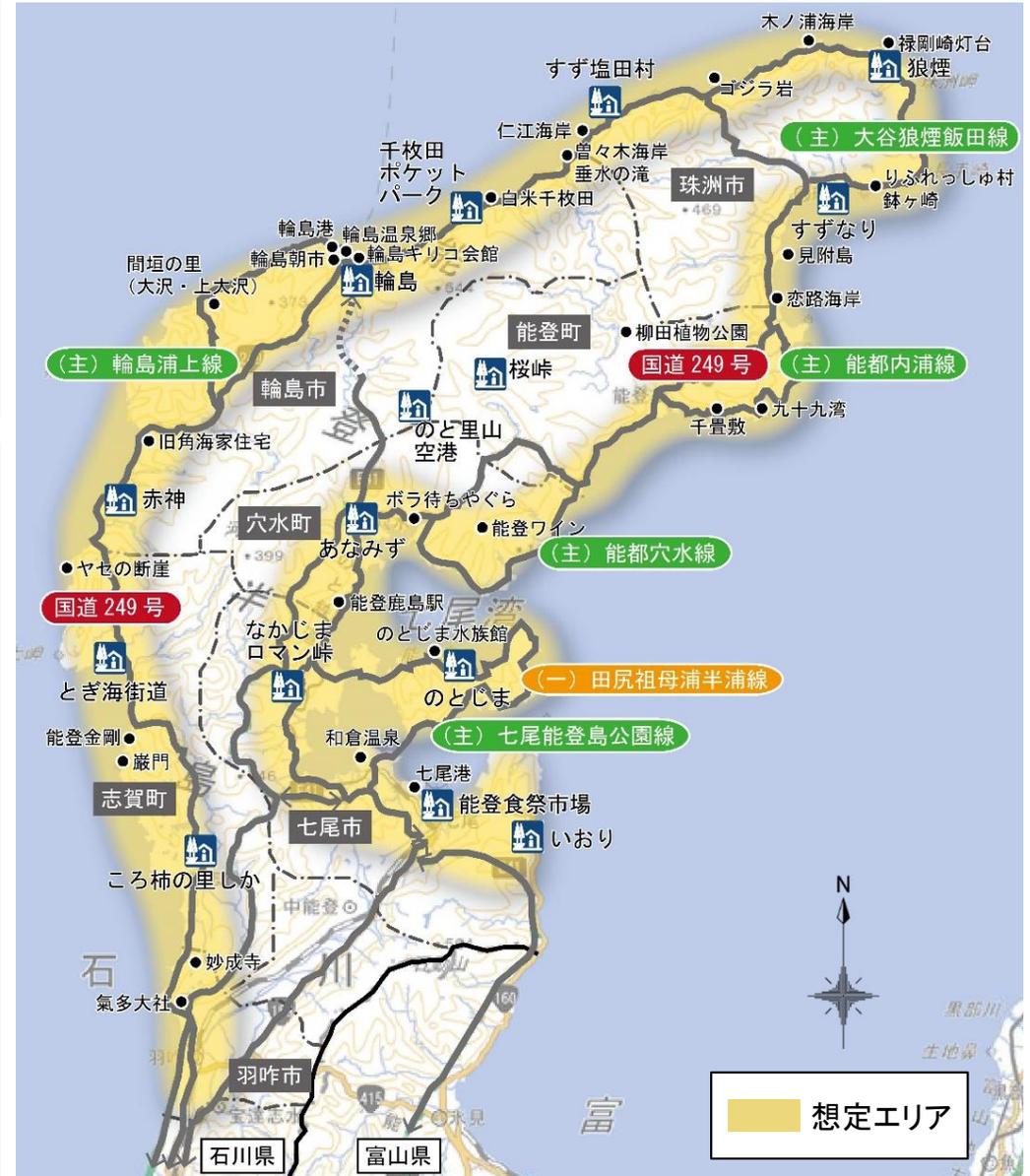
「能登半島絶景海道」の想定エリアにおける国道249号や県道大谷狼煙飯田線などの周遊道路に加え、観光資源へのアクセス道路についても復旧・整備を行い、周遊観光の促進を図ります。

・標識、案内看板へのロゴマーク等の記載

能登半島絶景海道内の標識や案内看板に記載することで、観光資源やルート of 適切な誘導を行います。



標識・案内看板イメージ



能登半島絶景海道想定エリア

2-1. 施設の復旧・再整備と各種サービス機能の拡充

ハード面

・「道の駅」の機能強化

非常電源や雨水貯留槽、自立型トイレの整備などの施設の強靱化に加えて、自動運転車など、様々な移動のモビリティ・ハブとしての活用・整備を推進します。



遠隔型自動運転実証実験
(写真:国土交通省)

・サイクリスト等サポート施設の整備

「道の駅」等の施設に、サイクリスト等の受け入れ環境(自転車やサイクルラック、工具、空気入れ等を貸し出す施設等)の整備を検討します。



サポート施設の様子(写真:石川県)

・震災遺構の展示

多くの方に被災状況や復興への歩みを伝えるため、集客施設である「道の駅」を中心とした震災遺構の展示を検討します。



「道の駅」に隣接する東日本大震災津波伝承館の展示物
(「道の駅」高田松原)

2-2. 「道の駅」のネットワークを活用した事業の展開

2. 人が集まる「道の駅」へ

ソフト面

・「道の駅」リレーイベント開催

令和6年能登半島地震等による甚大な被害の実情と教訓を伝承するとともに、県内外から奥能登地域に人を呼び込み、被災地に新たな交流を創出し、能登の力強い復興を支援することを目的に、北陸管内の「道の駅」を対象としたリレーイベントを開催します。

【開催状況】

第1弾として、4月26日から道の駅「千枚田ポケットパーク」及び「めぐみ白山」でリレーイベントを実施しました。

千枚田ポケットパークにおいては、能登半島絶景海道の魅力を伝えるポスター掲示を実施したほか、期間中は輪島塗の箸や千枚田で昨秋収穫した米のおにぎりなどが販売されました。

めぐみ白山においては、能登半島絶景海道の魅力を伝えるパネル展示と能登半島地震の復興遺物の展示のほかに、道の駅7周年感謝祭が同時に開催されました。

両道の駅とも、ゴールデンウィーク中の開催ということもあり、大いに賑わったイベントとなりました。順次他の道の駅でも開催していきます。

- ・道の駅「千枚田ポケットパーク」(令和7年4月26日～5月6日)



- ・道の駅「めぐみ白山」(令和7年4月26日～5月10日)



・特産物の販路開拓

「道の駅」や日本風景街道のネットワークを活用し、地方特産物の販路開拓に向けた取り組みを支援します。

奥能登絶景海道では、全国の道の駅へ復興支援カレンダー2025を販売しました。



特産物の販路開拓イメージ(出典:国土交通省)

3-1. 安全・安心・快適な自転車の走行に向けた環境整備

3. 能登を自転車でライド!

ソフト面

・多言語版ルートマップの作成

外国人利用者への対応や国外への情報発信強化、ナショナルサイクルルート指定に向けて、英語に加えて中国語(繁体字)等の多言語版ルートマップを作成します。



いしかわ里山里海サイクリングルート
英語版ルートマップ(写真:石川県)

ハード面

・自転車通行空間の整備

自転車の通行幅員の確保や分かりやすい案内表示など、自転車の快適な走行環境の整備を推進します。



矢羽根型路面標示
(加賀温泉駅前)



路面標示によるルート案内
(七尾市)



ルート案内看板
(羽咋市)

【その他の取り組み案】サイクリスト等サポート施設の整備 (再掲) 等

3-2. 魅力的なサイクリングエリアの形成

3. 能登を自転車でライド!

ソフト面

・サイクルスポーツイベント(ツール・ド・のと等)の支援

震災後、規模の縮小や中止を余儀なくされている、ツール・ド・のとを代表とする能登地域の各種サイクルスポーツイベントの再開や更なる賑わいに向けて支援します。



ツール・ド・のと



トライアスロン
珠洲大会

(写真：石川県観光連盟)

・サイクルトレインの支援

サイクリングを目的に能登を訪れる方を対象としたサイクルトレインの実施について、鉄道会社の取り組みを支援します。



北陸鉄道 サイクルトレイン
(写真：石川県)



富山地方鉄道 サイクルトレイン(土日祝運行)
(写真：とやまサイクルナビ)

【その他の取り組み案】 いしかわ里山里海サイクリングルート of ナショナルサイクルルート指定を目指した取り組み(基幹ルートの指定等) 等

4-1. 震災や復興に向けた取り組みを伝える海道の整備

4. 風景街道が
“おもてなし”

ソフト面

・オリジナルグッズの企画・販売

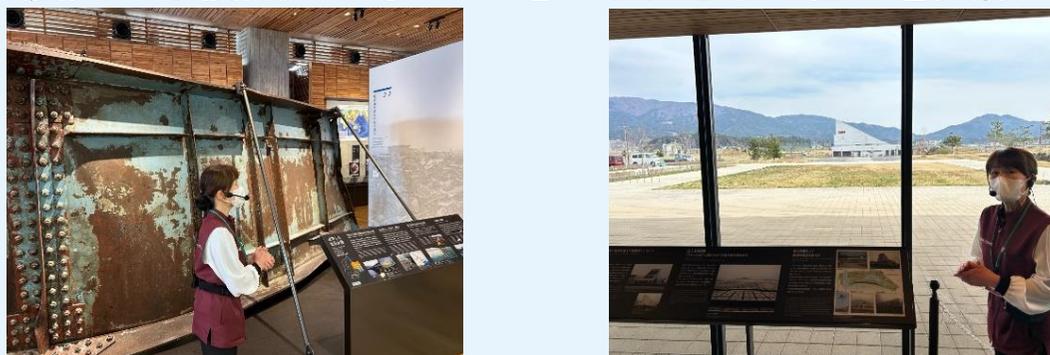
能登半島絶景海道の魅力発信や活動資金の確保に向けて、ロゴマーク等を活用したオリジナルグッズの企画・販売を支援します。



奥能登岬みちづくり協議会によるオリジナルグッズの販売
(写真：奥能登岬みちづくり協議会)

・観光ガイド(震災の語り部)等による震災の記憶の伝承

震災遺構の紹介や震災当日この場所で何が起こったのかを伝える案内ガイドの配置、ガイドツアーなど、震災から復興への歩みが感じられる取り組みを支援します。



震災語り部によるガイドの様子
(岩手県 高田松原津波復興記念公園)

4-1. 震災や復興に向けた取り組みを伝える海道の整備

4. 風景街道が
“おもてなし”

ソフト面(続き)

・トキをシンボルとした地域活性化の推進

2026年度能登地域でのトキ放鳥に向けて、生息環境の整備促進やトキとの共生にむけた社会環境の整備を支援します。

また、トキ放鳥を契機とした地域活性化に向けて、トキツーリズムなど交流人口の拡大に資する取り組みを支援します。



トキ
(写真:石川県創造的復興プラン)

ハード面

・能登半島国定公園の拡張支援

震災によって新たに出現した海岸隆起や新たな絶景を地域資源として、それらの利活用を促進します。

また、能登半島国定公園の拡張などを通じて、能登地域における生物多様性の保全に向けた取り組みを支援します。



能登半島国定公園のエリア
(出典:国土情報ウェブマッピングシステム)

【その他の取り組み案】 絶景を眺望できるパーキング等の整備 (再掲) 等

4-2. 地域住民等の多様な主体と連携した取り組みの展開

4. 風景街道が
“おもてなし”

ソフト面

・各種団体との協力体制構築

能登半島絶景海道の活動の活性化及び活動の後継者や将来の担い手確保・新たな日本風景街道の登録に向けて、能登地方の地域活動団体との協力体制を構築します。



奥能登岬みちづくり協議会（珠洲市）活動の様子
(写真:奥能登岬みちづくり協議会)

・復興イベントの開催

サイクリングイベントなど、能登半島絶景海道の魅力を全身で感じられるイベントの企画・開催を地域の団体と連携し推進します。



富山から石川へ復興応援ライド（開催日：令和7年4月20日）

【その他の取り組み案】 民間企業との連携による新たな取り組みの推進

ハード面

標識、案内看板へのロゴマーク等の記載（再掲）

等

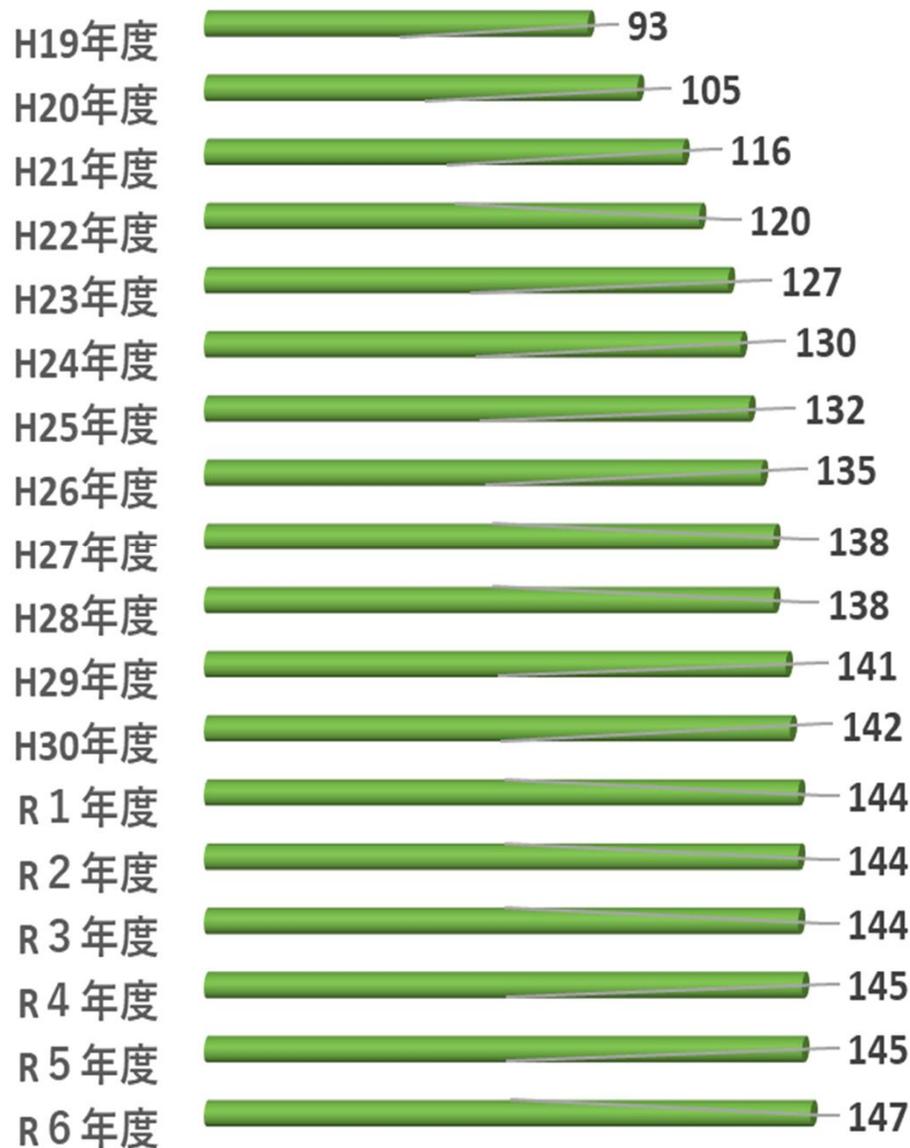


日本風景街道の経緯

●主な出来事

- H17.12 日本風景街道戦略会議 設立
- H19. 4 「日本風景街道の実現に向けて 提言」
(戦略会議)
- H19. 9 日本風景街道の登録開始
- H23. 5 N P O法人日本風景街道コミュニティ
設立
- H28. 8 日本風景街道自治体連絡会 設立
- H29. 4 「質の高い日本風景街道に着手するた
めに 提言」
(自治体連絡会・コミュニティ)
- H29.12 「日本風景街道」有識者懇談会 設置
- H30. 8 「日本風景街道の発展に向けて 提言」
(有識者懇談会)
- R 1. 3 第1回 全国意見交換会
- R 1. 5 「日本風景街道の発展に向け
第2回『提言』」
(自治体連絡会・コミュニティ)
- R 2. 5 日本風景街道ポータルサイト 開設
- R 3.12 第2回 全国意見交換会
- R 6.12 第3回 全国意見交換会

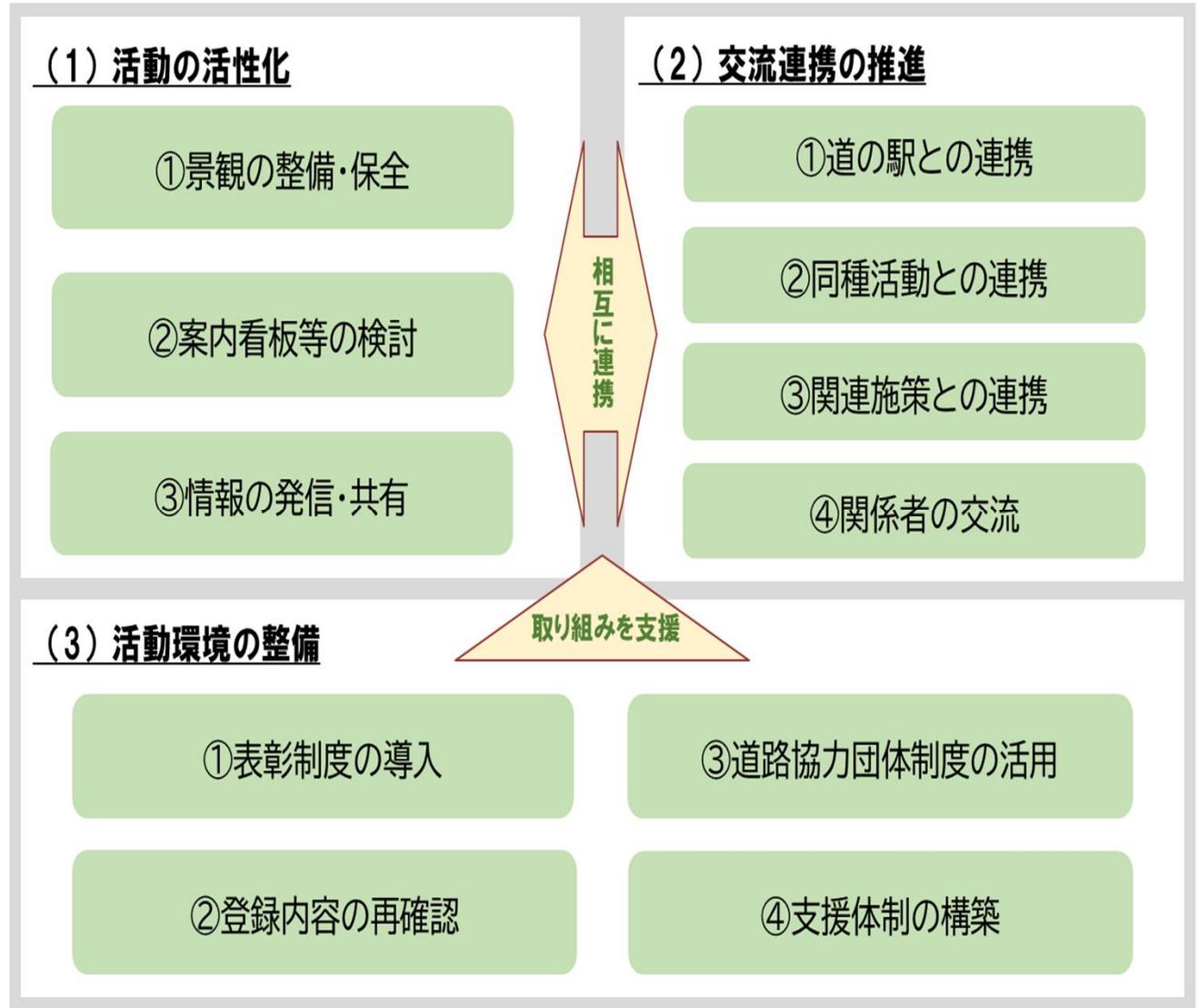
●団体数の推移



発展に向けた課題

- 停滞が見られるパートナーシップが存在
- 「日本風景街道」の認知度が低い
- 関係者間の発展に向けた議論が不足
- 地元自治体との連携が不足
- 好事例や助成制度等の共有が不足
- ルート登録後に活動状況の確認等を行うスキームがない
- 資金・人員体制が不足

発展に向けた具体的取り組みの方向性



創設20周年にむけて「もっと繋がる風景街道」(仮)



道路協力団体

日本風景街道



九州横断の道やまなみハイウェイ
2022年2月1日

<https://youtu.be/xOTG7Hpcgtg>
【YouTube:3分57秒】

海外向け情報発信 旅行専門サイト「The Travel Intern」のツエン・タオ・リンさん（ベトナム出身）をお迎えして、やまなみハイウェイ（九重）の魅力を海外に発信していただく、FAMツアーを実施しました！
その様子をご覧ください。

SNS

引き馬体験

YOUTUBE.COM
【やまなみハイウェイ】インフルエンサー in 九重 やまなみ牧場FAMツアー
日本風景街道 #九州風景街道 #やまなみハイウェイ #九州観光 #やまなみ牧場 #ScenicByway #



今後のスケジュール

2024年12月

第3回 日本風景街道 全国意見交換会

「2027年の日本風景街道創設20周年に向けて、
もっと繋がる「風景街道」 キックオフ！」

連携・検討

2025年12月

第4回 日本風景街道 全国意見交換会

「日本風景街道の新たなステージに向けた取組みの
方向性を共有」

とりまとめ

2026年12月

第5回 日本風景街道 全国意見交換会

「日本風景街道の新たなステージに向けた提言の発表」

提言の反映

2027年12月(20周年)

第6回 日本風景街道 全国意見交換会

「日本風景街道の新たなステージへ
～CN、防災、観光などの多様な施策との連携による日本風景街道の発展～」



第3回全国意見交換会

【リーディングプロジェクトの推進】
能登半島絶景海道の復興に向けた取組

【多様な施策との連携】
モデル地区での試行等
(CN、NP、防災、観光)

【道路協力団体制度の活用拡大】
新たなビジネスモデルの検討

【新たな担い手の確保】
定住・定着を図る取組との連携



(参考) 中越地震からの復興と日本風景街道

平成16年10月 新潟県中越地震 発生

同年12月 土木学会第二調査団(団長:家田仁東京大学大学院教授(当時))緊急提言
「被災山村の風景と文化の価値に着目した復興」としてシーニックバイウェイ
の考え方を導入した復興を提言

平成18年 6月 よりみち街道『中越』クラブ 設立

(地域活動団体、企業、大学、地域行政、道路管理者により構成)

平成19年10月 よりみち街道『中越』 日本風景街道に登録

《よりみち街道『中越』の支援活動》

①フォトコンテスト開催

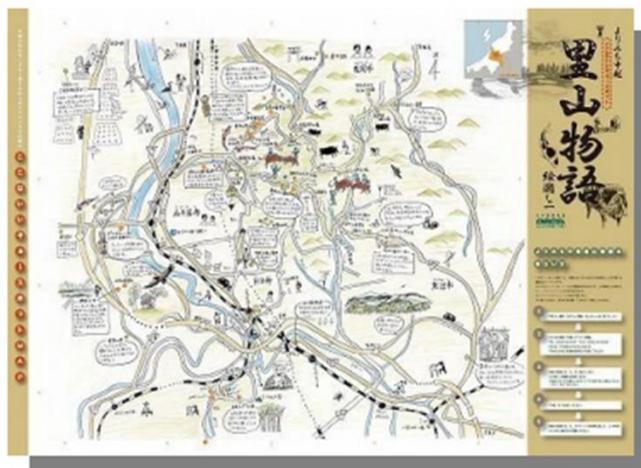
入選作品をカレンダーにし、
売上の一部を復興支援に活用



復興支援カレンダー製作

②地域を知り尽くした人による観光マップの作成

「よりみち中越里山物語」



③地震発生20年となる

令和6年に「防災ピクニック」
を川口きずな館と共催



